

ヒロシマからの平和アピール

1945年8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下され、街は一瞬にして焦土と化し、多くの尊い命が奪われた。78年を経た今もなお、被爆の後遺症に苦しんでいる方々がいる。「もう二度と被爆者をつくりたくない」「地球上から核兵器をなくしたい」という強い願いにもかかわらず、今なお、私たち人類は核兵器の脅威にさらされ続けている。

国際社会に目を向ければ、ウクライナへの軍事侵略におけるロシアの核威嚇や、中国の核戦力増強、北朝鮮による度重なるミサイル発射など、今この時も世界の平和が脅かされている。人類がこれまで積み重ねてきた核兵器廃絶の努力を踏みにじり、核兵器が使われる危険性が高まっていることは、極めて遺憾である。私たちは、平和にくらし、はたらく、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識し、戦争体験や被爆体験を語り継ぎ、平和を守る努力を続けていかなければならない。

本年5月、ここ広島においてG7サミットが開催され、核兵器保有国を含む世界のトップリーダーが広島平和記念資料館を訪れた。核兵器の廃絶に向けた取り組みは、国境や政治的な垣根を越えて行われるべきである。各国のリーダーには、核兵器の恐怖と悲惨さ、実相を胸に刻むとともに、核兵器廃絶に向けたリーダーシップの発揮を強く期待する。そして、唯一の戦争被爆国である日本政府には、「核兵器のない世界」を実現するために、自らの役割と責任を果たすことを強く求める。

連合は、毎年、核兵器保有国の駐日外国公館に対して、核兵器廃絶に向けた要請行動を展開するとともに、全国各地で原爆写真ポスター展や平和学習会を開催するなど、核兵器の恐怖と非人道性を世の中に強く訴え続けている。今後も、原水禁、KAKK I Nをはじめ、平和首長会議や国際労働組合総連合（ITUC）、広島市立大学や広島平和文化センターなどの教育機関やNGOとの連携をより一層強化し、核兵器廃絶・恒久平和の実現をめざしていく。

私たちが、将来世代に平和で安全な世界を引き継ぐ責任を果たすためにも、平和を願うすべての仲間の力を結集し、核兵器廃絶・恒久平和の実現に向けた粘り強い運動を展開していくことを、ここに宣言する。

2023年8月5日
連合 2023 平和ヒロシマ集会